

重要文化財 鹿兒島神宮

本殿及び拝殿・勅使殿
摂社四所神社本殿

指定日：令和4年（2022）年2月9日
所在地：鹿兒島県霧島市隼人町内 2496-1

海幸・山幸神話で有名なヒコホホデミノミコト（山幸彦）を祭神とする鹿兒島神宮。建国神話に繋がる神を祀る神社として、数少ない神宮号を名乗っています。江戸時代以前は大隅国の一宮として「大隅正八幡宮」と呼ばれ、敷地全体とその周辺は「大隅正八幡宮境内及び社家跡」として国の史跡にも指定されています。

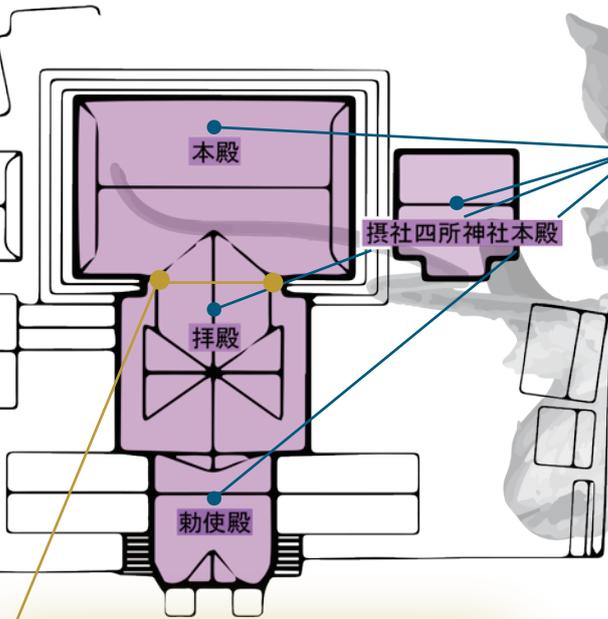
社殿は平安後期から戦国期にかけて何度も火災に遭い、その都度再建されています。特に戦国期には戦いに巻き込まれて焼けたこともあります。現在の社殿は薩摩藩主・島津重年が寄進し、宝暦6年（1756）に完成したものです。

正面から勅使殿・拝殿・本殿と並んでいて、全体的に巨大です。特に本殿部分は九州最大級、全国的に見てもかなりの大きさを誇ります。本殿の東側には摂社四所神社の本殿も配置され、同時期に一連のものとして建てられたと評価されています。

重要文化財

本殿及び拝殿 勅使殿 摂社四所神社本殿

本殿（神を祀る建物）と拝殿（参拝を行う建物）が一体となり、勅使殿（勅使を迎える建物）も相まって巨大な建物になっています。本殿部分の屋根は檜皮葺（檜の皮で屋根を葺いたもの）で、鹿兒島県内では唯一です。建物全体が彫刻や絵画などで豪華に彩られています。特に拝殿の天井部分には 260 以上の植物が描かれていて、圧巻です。



鹿兒島神宮の

3D

動画解説は、
3分55秒 →



本殿の向拝柱は龍の形に彫り込まれた「龍柱」で南九州の神社特有のものです。参拝時に見ることができます。



天井絵には、江戸時代に日本にはほとんどなかった植物も描かれていて、薩摩藩と東アジアとのつながりも感じることができます。